

## バクー＝ズプサ・パイプライン付近における「国境」標識の設置に関する在ジョージア日本国大使館声明

日本は、ジョージアの被占領地域であるアブハジア及びツヒンヴァリ地域/南オセチアにおける紛争が、国際的に認知された国境内でのジョージアの主権及び領土一体性の原則に基づき平和的に解決されることが、同国及び南コーカサス地域全体の平和と安定にとって不可欠であるとの一貫した立場である。

この点は、今般のバクー＝ズプサ・パイプライン付近における「国境」標識の設置についても同様である。

日本・ジョージア両国は、ジョージアの国際的に認知された国境を変更しようとする如何なる試みにも反対している。

これらの点は、マルグヴェラシヴィリ大統領の訪日時に安倍総理大臣との間で2014年10月24日に署名された「日本国とグルジアとの間の『平和と民主主義への連帯』に関する共同声明」においても明記されている。